

Case 12-2012. A 10-month-old girl with vomiting and episodes of unresponsiveness

(New England Journal of Medicine 2012 November 15; 367(20): 1940-1948.)

【患者】 10 ヶ月女児

【主訴】 嘔吐・意識障害

【現病歴】

来院当日の午前 2 時に嘔吐とともに覚醒、不機嫌で頻繁に啼泣していた。それまでは健康。続く 7 時間、経口摂取は減少し、4 度嘔吐した。吐物に胆汁や血液は含まれていなかった（授乳後は人工乳が含まれていた）。嘔吐のタイミングとは関係なく、反応が消失するエピソードも認められた。その間、開眼もしくは閉眼していて、頭は落ち、脱力していて、座らせるとどさっと崩れた。これらのエピソードは群発せず、それぞれのエピソードのあとは元の神経学的機能を回復した。4、5 回の反応消失の後、回復させるのが難しくなっていた。最初は 2～3 秒で回復が認められたが、最終的には持続時間が 30～60 秒となっていた。アセトアミノフェンが 5 時に投与されたが改善は認めなかった。

患児の母親が小児科に電話をかけ、病院に連れて行くよう忠告された。救急車は午前 9 時 1 分に到着した。母親によれば、最近では病気や発熱をしておらず、排便習慣、便の硬さや色に異常があったことはなかった。救命士の観察では、患児は覚醒していたが無気力で、その他は月齢相応に見えた。母親が近くにいないと不安になり、近くにいれば落ち着いていた。外傷痕も認められなかった。PR104、RR26、呼吸音清であった。救急外来には 9 時 20 分に到着した。

発熱、悪寒、咳嗽、下痢、発疹、強直間代発作、攣縮、眼球回転発作や複視、蒼白やチアノーゼはなく、分かる範囲では、頭部やその他の外傷、毒物への暴露や吸収は認めなかった。濡れていたおむつは 4 時に交換した。予防接種は行うべきものは全て行ってある。

【出生歴】自然経膈分娩で妊娠 38 週に出生、母体には妊娠高血圧腎症の合併が認められた。出生体重 2.85kg（パーセンタイル値 13%）、身長 45.7cm（パーセンタイル値 6%）。新生児期に黄疸なく、出生当日に排便を認め、出生直後から授乳を開始した。

【既往歴】聴覚刺激に対する応答が乏しかったため、早期治療の専門医によってフォローアップされていたが、数ヶ月で中断された。その他の健康診断で発達上の問題を認めることはなかった。3.4 ヶ月の際、胃食道逆流症を認めたが、ランソプラゾール（PPI）が 3 ヶ月間投与され、症状の完治を認めた。

【社会生活歴】両親は南米出身で、最近離婚した。患児は母親と住み、しばしば父親と泊まりで過ごすこともある。

【家族歴】母親には片頭痛とともに間欠的に目の前が真っ暗になるという症状がある。消化器疾患の家族歴はない。

【アレルギー歴】なし

【薬剤歴】なし

【入院時現症】

《General》体温 36.3℃、血圧 110/70 mmHg、脈拍 135/分、呼吸数 36/分、SpO<sub>2</sub> 100% (room air)。外傷痕なし。

《皮膚》ピンク色で暖かく乾燥していた。

《頭頸部》異常なし。

《胸部》異常なし。

《腹部》異常なし。

《筋骨格系》異常なし。

《神経系》患児は傾眠傾向で、やや覚醒させるのが難しく、不機嫌だが落ち着いていた。神経学的異常は認めない。

#### 【入院時検査所見】

《血算》ヘマトクリット、ヘモグロビン正常

《生化学》グルコース、マグネシウム、リン、TP、アルブミン、グロブリン、総ビリルビン、直接ビリルビンは正常。肝機能正常。その他血液所見は Table1 参照。

《尿定性》比重 1.020, WBC(1+), ケトン(1+)、アルブミンごくわずか、移行上皮認めない

《心電図》異常なし。

《脳波》てんかん発作の証拠認めず。

《胸部 XP》異常なし。

《頭部 MRI》異常なし。

《血糖》異常なし。

《血中毒物・尿中毒物》陰性。

#### 【入院後経過】

輸液を V ラインより開始、その後患児は意識清明、刺激に反応し、協力的で、おもちゃに興味を持つ状態と、不活発で、不機嫌で、反抗的な状態を繰り返すようになった。一度病院スタッフが立ち会わない時に、精神状態の変化のエピソードがあったことを報告した。神経内科コンサルト。

#### Questions:

- プロブレムを挙げてください。
- 必要な検査および診断的手技を挙げてください。
- 鑑別診断を考えてください。

Variable	Reference Range, Age-Adjusted†	On Admission
White-cell count (per mm <sup>3</sup> )	6000–17,500	19,400
Differential count (%)		
Neutrophils	17–49	78
Lymphocytes	67–77	19
Monocytes	4–11	2
Eosinophils	0–8	1
Platelet count (per mm <sup>3</sup> )	150,000–450,000	483,000
Sodium (mmol/liter)	135–145	138
Potassium (mmol/liter)	3.4–4.8	5.2 (slightly hemolyzed)
Chloride (mmol/liter)	98–106	102
Carbon dioxide (mmol/liter)	22.0–27.0	21.4
Urea nitrogen (mg/dl)	5–20	11
Creatinine (mg/dl)	0.30–1.00	0.28
Calcium (mg/dl)	8.5–10.5	10.9

\* To convert the values for urea nitrogen to millimoles per liter, multiply by 0.357. To convert the values for creatinine to micromoles per liter, multiply by 88.4. To convert the values for calcium to millimoles per liter, multiply by 0.250.

† Reference values are affected by many variables, including the patient population and the laboratory methods used. The ranges used at Massachusetts General Hospital are age-adjusted and are for patients who are not pregnant and do not have medical conditions that could affect the results. They may therefore not be appropriate for all patients.